

冬期講座のお知らせ

期間：12月23日(金)～1月5日(木)

※12月30日(金)～1月3日(火)はお休みです。

高3生は受験に向け、ラストスパートに入ります。高1生・高2生は、冬休みの間にどれだけ弱点を克服できるかが、今後を大きく左右します。冬休みが充実したものになるように頑張りましょう。

東進特別公開授業 【数学】志田晶先生

日にち：11月19日(土)

時間：18:00 開場 18:30～20:00

場所：比治山女子中学・高等学校



アクシア三択クイズ 先月の答えは『C』です。

日本海という名前を付けた国はどこでしょう？

A：日本 B：中国 C：ロシア

今月のTOPIX ～センター試験までの過ごし方～

【選択科目はまだまだ伸びる】

センター試験の出願も締め切れ、いよいよ受験までのカウントダウンが始まりました。秋からセンター試験本番までに、どの科目がどれだけ伸びるのかを、昨年の受験生のデータをもとに分析しました(資料1)。「現役生は試験直前まで伸びる」ことを確認し、1分1秒も無駄にせず、集中して学習に取り組んでください。全体的に得点を伸ばしている中で、最も伸びが大きいのは英語の16.9点でした。次に理科15.3点、地歴公民12.6点と続きました。「現役生は試験直前まで伸びる」ことの証明と言えるでしょう。なお得点率で見ると、理科と地歴公民は英語よりも伸びが高かったです。合格した先輩たちは、英語・数学など主要科目を中心に、夏までにある程度仕上げておき、秋からは選択科目の対策をしっかりを進めることで総合得点の底上げをしていたようです。得意科目は二次・私大対策を進めましょう。苦手科目や対策が十分でない科目は、得点を伸ばすチャンスです。あいまいな理解をなくすため、一気に基礎から見直しましょう。

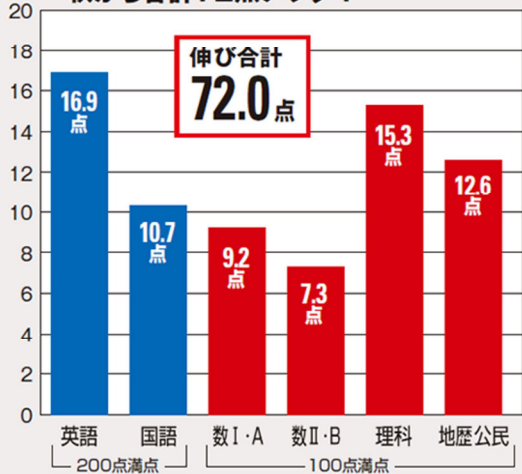
【学習計画を立て、量と質を高めよう】

更なる得点アップを狙うには何をすればよいのでしょうか？そこで、得点を伸ばした合格者と伸ばせなかった不合格者をグループに分けてその違いを調べました(資料2)。過去問演習の実施回数を科目別に見たところ、数I・A、数II・B、生物、現代社会で、2つのグループの過去問の演習量に大きな開きがありました。合格者の方が不合格者のグループよりも実施年数が上回っていたのです。このことから「量」の確保は欠かせないことがわかります。ただし、焦って過去問ばかりやれば良いわけではありません。学習の「質」を高めるため、基礎知識の徹底修得と出題範囲の修了を並行して行いましょう。センター得点率6割程度の科目は8割に向けて、基礎と苦手箇所の見直しに取り組みましょう。6割未満の科目は盤石な土台作りを目指しましょう。すでにセンター模試で得点率8割を安定して達成できている科目は、二次・私大対策を積極的に進めていきましょう。

(出典:東進進学情報)

資料1 現役合格者の8月「センター試験本番レベル模試」から、翌年のセンター試験本番までの点数の伸び

秋から合計72点アップ！



資料2 秋から本番までの伸び + 合格別 センター試験 過去問平均演習量

伸び50点未満・不合格者

伸び50点以上・合格者

7.3年分

数I・A

9.5年分

6.7年分

数II・B

9.7年分

4.5年分

生物

6.8年分

4.4年分

現代社会

6.5年分

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 (年分)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (年分)

